

様式第11号（第14条関係）

富士見市採択協働事業完了報告書

令和7年2月25日

（宛先）富士見市長

採択者 団体の名称 富士見三芳稲門会  
代表者氏名 会長 木原 直史  
所在地  
電話番号

採択協働事業（令和6年3月29日付け富協第1465-2号）が完了しましたので、富士見市協働事業提案制度実施要綱第14条の規定により、次のとおり関係書類を添えて報告します。

1 報告事業の名称

世界が広がる！学校では教えてくれない授業

2 添付書類

- (1) 事業報告書（様式第12号）
- (2) 収支決算書（様式第13号）
- (3) 事業を実施した成果が分かるもの

様式第12号（第14条関係）

事業報告書

1 事業の概要

事業の名称	世界が広がる！学校では教えてくれない授業	
団体名	富士見三芳稲門会	
協働した市担当部署名	文化・スポーツ振興課	
事業期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年2月25日	
事業目的	市民の学びの機会の充実と国際理解の促進を目的に、地域住民が持つ知識・経験・人脈などを活用して、国際理解につながる学びの機会を子供たちに提供することで、富士見市での「学び」を魅力的にし、親が「ここで子供を育てたい」、子が「ここで学び続けたい」と思えるまちにする。	
役割分担	団体	イベントの企画、チラシ等の作成、学校等への周知、講師手配、会場設営、司会進行、事業の効果測定（アンケート）
	市担当部署	市役所関係部署との調整、市ホームページや広報富士見による周知、会場の確保、イベントの企画・協力、会場設営
事業決算額	147,458円	（市補助金150,000円）

## 2 事業の成果

	時期（月）	具体的な内容・場所・対象者
実施内容	4月3日	第1回打ち合わせ（参加者：富士見三芳稲門会 場所：みずほ台コミュニティセンター集会室 内容：企画内容の検討）
	7月18日	第2回打ち合わせ（参加者：富士見三芳稲門会、文化・スポーツ振興課 場所：富士見市役所ミーティングルームE 内容：市担当者との顔合わせ、企画内容の検討）
	9月11日	第3回打ち合わせ（参加者：富士見三芳稲門会、馬場匡浩先生 場所：オンラインミーティング 内容：講演内容の確認など）
	10月11日	第4回打ち合わせ（参加者：富士見三芳稲門会、文化・スポーツ振興課 場所：富士見市役所市長公室 内容：企画内容の検討、広報・周知関係、役割分担の確認など）
	11月20日	第5回打ち合わせ（参加者：富士見三芳稲門会、文化・スポーツ振興課 場所：ふじみ野交流センター多目的ホール 内容：会場下見、当日の流れの確認など）
	11月25日	第6回打ち合わせ（参加者：富士見三芳稲門会、文化・スポーツ振興課、馬場匡浩先生 場所：オンラインミーティング 内容：講演内容及び当日の進行確認、参加申込状況の共有、当日の役割分担の確認など）
	12月7日	「世界が広がる！学校では教えてくれない授業 古代エジプトと現代日本の比較」（参加者：31組70名（保護者33名・子ども37名） 場所：ふじみ野交流センター多目的ホール）
	2月8日	第7回打ち合わせ（参加者：富士見三芳稲門会 場所：みずほ台コミュニティセンター集会室 内容：イベントの振り返り、実績報告書の作成、来年度の企画検討など）

事業効果

1 国際理解の促進

参加者が考古学をきっかけにエジプトの歴史や文化、建築、地理、言語などに興味を持ち、国際理解が深まった。

→エジプトの歴史や文化について「理解が深まった・やや深まった」の回答が100%（アンケート結果より）

2 多様性の理解

古代エジプトと現代日本の衣食住や働き方の比較を通じて世界の多様性や価値観の違いを理解することができた。

3 コミュニケーションの促進

親子・友人同士などペアでの参加を推奨し、ゲームやワークショップを通じて自然とコミュニケーションが生まれる工夫をしたことで絆が深まった。

4 国際的な視野の拡大

講師の発掘エピソードを通じて、チームとして国籍や言語の違いを超えて協力することの素晴らしさや、海外での発掘調査の困難さを学んだ。また、講師がエジプト考古学者になるという夢をどのように叶えたのかを具体的に解説してもらうことで、国際的な視野を持つことの重要性や、夢や目標に向かって粘り強く取り組むことの大切さを学んだ。

【事業実績】

「世界が広がる！学校では教えてくれない授業 古代エジプトと現代日本の比較 - 時代と国境を超えた衣食住の違い - 」

申込者数：51組113名（保護者57名・子ども56名）

※定員80名を上回る申し込みがあったため抽選を実施

参加者数：31組70名（保護者33名・子ども37名）

→イベント満足度「満足・やや満足」の回答が100%（アンケート結果より）

### 3 今後の事業展開について

昨年度に2回開催した「学校では教えてくれない国旗の授業」のアンケート結果において、今回は「歴史」をテーマにして欲しいという声が多かったため、当団体とのつながりが深い早稲田大学のエジプト学研究所の力を借りて今年度のイベントを実施しました。

学びに関する市民ニーズを的確に捉えた結果、当日は多くの参加者がありました。会場では、真剣に講師の話をお聴き子どもたちと保護者の顔が見られ、ゲームやワークショップでは大変な盛り上がりを見せました。

現役のエジプト考古学者による講義という貴重な学びの機会を提供できたことで、市民の多様な学びへのニーズに対応可能な本事業の可能性を改めて認識しました。

来年度は、今年度のアンケート結果を参考に、当団体の豊富な人材ネットワークを駆使して、引き続き今年度と同様の魅力あるイベントを開催していきたいと考えています。

### 4 団体、担当部署の評価等 評価：◎よくできた ○できた △課題である

協働事業の 評価の視点	団体		担当部署	
	評価	コメント	評価	コメント
協働事業を行うにあたり、互いの情報等を共有できたか。	◎	事前に綿密な打ち合わせを行い、互いの情報等を共有できた。	◎	事前の打合せ等で情報を十分に共有できていた。
協働事業の目的を共有できたか。	◎	国際理解につながる多様な学びの機会の提供という本事業のコンセプトを共有し、チームとして取り組むことができた。	◎	事業計画書や打合せで目的を十分に共有でき、適切な方法を取り全員で事業を推進できた。
協働事業の役割分担は適正だったか。	◎	互いの強みを活かし、弱みをフォローしあう役割分担ができた。	◎	互いの強みを活かし、弱みを補い合える役割分担だった。

互いを尊重し、対等な立場で協働事業を実施できたか。	◎	お互いの立場を尊重しながら円滑に事業を遂行することができた。	◎	対等な立場で意見交換を行い、事業内容を向上させられた。
協働したことにより、地域課題の解決につながったか。	◎	市民の国際理解の促進と学びの機会の充実に寄与することができた。	◎	市民の国際理解の促進と学ぶ機会の提供に寄与することができた。

**【団体の感想等】**

市の協働パートナーが昨年度と同じであったため、不安なく事業に取り組むことができました。

今年度の企画の一つとして、テーマにちなんで市内に居住するエジプト人を招待したいという要望をお伝えしたところ、市内に該当者がおらず実現はしませんでした。力を尽くして探していただき大変感謝しました。

企画内容についても、これまでの信頼関係に基づき、お互いに活発な意見交換を行えたことで、企画の完成度が高まりました。

来年度も、行政と市民がお互いの強みを活かして対等な対場で協力して行動することで、様々な地域課題の解決につながると確信しています。

**【担当部署の感想等】**

国際交流を推進する当課としても、将来を担う子どもたちが海外の多様な文化に興味・関心を抱く事業を行うことは重要だと考えています。

昨年に引き続き、団体からは貴重なネットワークを活かした国際交流に有効な提案をいただきました。定員を上回る応募があったことから、市内の子どもたちからの大きな期待があったことが伺えます。

事業実施に際しては、団体と市が対等な立場で一緒に取り組み、市民に広く学びの機会を提供でき有意義なものとなりました。参加した児童生徒や保護者が、空き時間に講師へ積極的に質問をしていたことも印象的でした。

来年度も引き続き連携を行い、さらなる市民の学びの機会の充実と国際理解の促進を図りたいと考えます。

様式第13号（第14条関係）

収 支 決 算 書

事業の名称 世界が広がる！学校では教えてくれない授業 古代エジプトと現代日本の比較

1 収入の部

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
市補助金	150,000	147,458	
団体負担金	220,000	0	会員会費
収入合計	370,000	147,458	

2 支出の部

(単位 円)

科 目	予算額		決算額		摘 要
		うち補助対象額		うち補助対象額	
報償費	300,000	150,000	80,000	80,000	講師謝礼
消耗品費	20,000	0	35,543	35,543	事務用品、ヒエログリフスタンプなど
印刷製本費	30,000	0	30,966	30,966	チラシ、スタンプ台紙
食糧費	0	0	949	949	お茶代（講師・ボランティアスタッフ分）
参加者記念品	20,000	0	0	0	購入しなかったため
支出合計	370,000	150,000	147,458	147,458	